国東市宇宙港関連構想（概要）

本資料は、構想の要点を説明するための概要版です。

国東市 政策企画課　宇宙・地域共創室

本資料の内容

1	**宇宙港および宇宙関連産業の概況** 本構想の前提となる、国内外の動向を整理します。
2	**構想策定の背景** 国・県の動向と、本市が構想を策定した経緯に関する説明です。
3	**構想の位置づけと基本的な考え方** 構想の意義と、まちづくりの基本方針を整理します。
4	**直近に実施する取組** 構想に基づいて展開する直近の取組に関する説明です。

1　宇宙港および宇宙関連産業の概況

■ 用語の整理

宇宙と地上を行き来する機体が発着する拠点を宇宙港（スペースポート）といいます。大分空港は、宇宙からの機体が、飛行機と同様に滑走路に着陸する「水平型」の宇宙港の候補地とされています。

空港	宇宙港
飛行機が発着し、人や物資を輸送する交通の拠点。	宇宙へ向かう機体が発着する拠点。大分空港は「水平型」の候補地として検討されている。

■ 大分空港の位置づけ

大分空港は、3,000mの滑走路を有する国管理空港であり、国内でも水平型宇宙港の有力な候補地の一つとされています。

1　宇宙関連産業の市場規模と国の動向

■ 市場規模の見通し

世界の宇宙関連産業の市場規模

約280 兆円

2035年時点の予測値（出典：世界経済フォーラム）

国の支援（宇宙戦略基金）

10年間で1 兆円

2030年代早期に国内市場8兆円規模を想定

■ 国や県の動向

- 国は「宇宙基本計画」や「宇宙技術戦略」等に基づき、宇宙輸送における制度環境の整備や射場・宇宙港の活用検討を進めています。
- 直近の「宇宙基本計画工程表（令和7年12月改訂）」においても、2026年以降の取組として「**空港の宇宙港としての活用を検討するとともに、海外の宇宙輸送技術の活用**、海外衛星の国内からの打上げ**に向けて、必要な制度環境の整備**」に取り組むことが明記されています。
- 大分県は令和4年に「大分空港・宇宙港将来ビジョン」を策定し、大分空港を宇宙港として活用する将来像を示しています。
- 本市は第3期まち・ひと・しごと総合戦略において、「宇宙港」を重点ファクターの一つに位置づけています。

2　構想策定の背景 ― 本市の立地条件

大分空港が立地する本市は、宇宙港の候補地として次の条件を備えています。

滑走路	3,000mの滑走路を有し、大型機体の発着に対応可能。
地形	東および南が海に開けており、安全な飛行経路を確保しやすい。
気象	気象が比較的安定しており、発着・打上げに適している。
既存インフラ	空港・港湾・工業用地等の既存インフラを活用できる。
地域資源	打上げ・着陸に携わる技術者やロケット・宇宙往還機の顧客などの滞在時の観光資源が豊富。

これらの立地条件から、大分空港は水平型宇宙港の有力な候補地として評価されています。

2　構想策定の経緯

世界の産業動向、国や県の動向を踏まえ、市としての方針を明確化にするため、本構想を策定しました。

世界の動向	宇宙関連産業が成長分野として拡大（2035年に約280兆円の予測）。
国の動向	宇宙戦略基金の創設（10年間で1兆円）、日本成長戦略の策定など、産業育成を推進。
県の動向	宇宙開発企業と連携し、「大分空港・宇宙港将来ビジョン」を策定。宇宙港活用の将来像を提示。
本市の対応	国・県の動向を踏まえ、市としての方針を示す構想を策定。

3　構想の位置づけと基本的な考え方

■ 構想の位置づけ

本構想は、大分空港の宇宙港としての活用という機会を捉え、本市の産業・観光・人材育成等に資するまちづくりの方向性を示すものです。なお、個別の施策や事業については、関係機関との連携を図り、本構想の方針に沿って段階的に進めることとします。

■ 三つの基本方針

産業・しごと	観光・にぎわい	人材育成
航空宇宙関連企業の誘致等により、新たな産業や雇用の場の創出を目指します。	**宇宙をテーマとした観光・交流により、地域のにぎわいの創出を図ります。**	**宇宙を通じた新たな教育機会の提供等により、将来を担う人材の育成を目指します。**

宇宙関連産業は、製造・観光・教育・研究など多様な分野と関係します。
本構想は、これらを通じた地域振興の方向性を示すものです。

4　直近に実施する取組

構想の方針に基づき、当面、次の三つの取組を実施いたします。

(1)	**宇宙甲子園ロケット部門大分大会** 中高生が自作ロケットの技術を競う大会を市内で開催します。	実施時期 **令和8年11月1日**
(2)	**宇宙飛行士ミッション報告会** JAXA宇宙飛行士 大西卓哉氏を招き、報告会を実施します。	実施時期 **令和8年12月13日**
(3)	**官民連携組織の設立準備** 市内の関係機関や宇宙関連企業等が連携する協議会の設立に向けた準備を進めます。	実施時期 **準備中**

各取組の詳細および参加方法等は、市報および市ホームページで順次案内します。

4　直近に実施する取組 ― 詳細（2）

(3) 官民連携組織の設立準備

大分空港の宇宙港としての活用に関する取組を継続的に進めるため、官民の関係機関が連携する協議会の設立に向けた準備を進めます。
市内外の関係者が協議できる場を設け、共同で取組を推進する体制構築を目指します。
なお、本取組は、大分宇宙港構想において、宇宙往還機の大分空港への着陸構想が具体化する等の進捗がみられた段階で本格的に着手いたします。

■ 想定する連携体制

（仮称）スペースポートシティ国東協議会

市（行政）	企業	教育・研究機関
全体の調整、方向性の提示、住民理解の促進を担う。	事業活動を通じ、新たな産業・サービスの展開を担う。	各機関と連携しながら、人材育成に関する取組を進める。

（参考）まとめ

宇宙関連産業の概況

宇宙関連産業は成長分野であり、国・県が産業育成や宇宙港活用の取組を進めている。

構想策定の背景

大分空港が立地する本市は宇宙港の候補地であり、国・県の動向を踏まえて方針を明確化する必要がある。

構想の位置づけ

本構想は、産業・観光・人材育成を通じた地域振興の方向性を示すもの。

直近の取組

宇宙甲子園・宇宙飛行士報告会・官民連携組織の設立準備を実施予定。